
交わした約束は、忘れない。

臭い足の裏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

交わした約束は、忘れない。

【Nコード】

N0492S

【作者名】

臭い足の裏

【あらすじ】

あなたとの約束は忘れない。たとえば、何千回、何万回繰り返し返そうとも。あなたは私の友達だから。

(前書き)

魔法少女まどか マギカの二次書きたくなっちゃっよね。

まあ自分にはこんな素晴らしい作品の二次なんて書けないですけどね！！！！！！

ヒーローもののアニメではよく、『正義は勝つ』という。それはそうだろう。それは出来た世界なのだから。

現実ではどうだろうか。毎日のように人が殺され、犯され、貶められる。警察は汚職まみれ。『正義の味方』なんてものは存在しない。

『正義の味方』とはなんだろう。この際、個々の正義というものを考えないで、ゲームのように勇者が『正義』で、魔王が『悪者』だ。皆を苦しめる悪者を倒すから？ まあそうだろう。だが基本的正義の味方なんてものが存在する世界は、正義が強くなければ成立しない。

現実ではどうだろうか。私は正義と悪、どちらが強いかと聞かれれば迷うことなく『悪』と答えるだろう。それはなぜか。説明するまでもない、少し周りを見渡せばわかることだから。

ほら、すぐそこにはサラリーマンの男性が若者数人に囲まれてリオンチを受けている。振り返れば女性がレイプされている。麻薬の売買をしている現場なんて飽きるほど見た。

この腐りきった世の中には正義の味方は存在しない いや、それに似たものは存在する。だが、正義の味方とは他者からつけられる称号であり、他者からは見えないところで『悪者』を倒す私たち“魔法少女”は正義の味方にはなれない。

それでも、彼女はそれでいいと言った。いくら私が止めても彼女は人を守りたい、救いたいと言った。何もできない不器用な自分でも人を救うことができるなら、と。

自分の身を犠牲にしても？

うん。

それがあなたのことを想っている人を傷つけることにな

つても？

.....

彼女は優しすぎる。その優しさが私にはとてもつらい。私はあなたに不幸になって欲しくないだけに。

『魔法少女』

それはとてもすばらしいものに見えるかもしれない。大きな力を手に入れ、悪者である“魔女”を倒す。そうすれば人々は救われる。優しい彼女からすれば、それはとても魅力的に見えただろう。けれど教えなければいけない。それは騙されていると。

“何度”も繰り返した世界で、騙されている、魔法少女になつてはいけない、とさんざん主張しても、信じてもらえなかった。そして彼女たちは　魔女になり、死を振りまき、死んでいった。

もう誰にも頼らない。一人で片を付ける。

“何回目”の後であろうか。私がそう決意したのは。

元々、私には才能なんてものはない。わかってる。私の能力のおかげで戦えるだけだ。私にその能力がなければ、いくら魔法少女であってもそこら辺の人間と変わらない。

何度も失敗した。何度も諦めかけた。すべてを投げ出さなくなつた。けれども、私はそうしなかった。

私の願いは、『彼女を護る』こと。何度も彼女は私を護ってくれ、そして死んでいった。

そして彼女と約束をした。

キユウベえに騙される前のバカな私を、助けてあげてくれないかな。

そう言つて死んだ彼女。

魔女になつた彼女を見るたびに挫けそうになつても、約束を思い出し自分を奮い立てた。次は私が護る。あなたを魔女にはさせない。そうして私は心を鬼にして、彼女を護るために力を注いできた。すべての原因である忌々しい小さな生物を何度も殺し、彼女に接触させないようにした。それでもやつは接触した。その時の私の

絶望といえは計り知れない。しかし、何度も繰り返してきたのだ。全力を注ぐのみ。

とてもつらいが、彼女にもきつく当たった。突き放した。その時の彼女の表情は絶対に忘れない。

いくら嫌われようと、いくら恨まれようと構わない。とてもつらいが、甘んじて受け入れよう。すべては彼女との約束のため。不幸になって欲しくないがため。

私の唯一の友達の彼女　鹿目まどか、いえ、まどか。私はあなたを絶対に護ってみせる。何度繰り返そうと。あなたは知らなくていい。知る必要はない　私のことも。私はあなたと約束した。絶対に果たして見せる。

そしてキュウベえ　いえ、インキュベーター。あなたの思い通りにはさせない。必ず私が、あなたの野望を打ち砕いてみせる。今はせいぜい高みから見物しているといい。

さあ、もう時間だ。繰り返される無限の時間。私はこれからあの見慣れた病室で目を覚ますだろう。

やってみせる。今度こそ

(後書き)

ああほむほむかっこいいいよお

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0492s/>

交わした約束は、忘れない。

2011年11月16日23時08分発行